



風早地域センターだより

令和8年(2026年)

6月号

風早地域センター

〒739-2403 東広島市安芸津町風早 1214-1 電話・Fax(0846-45-0023)

令和8年 6月22日発行

令和8年(2026年) 5月31日(日)の読売新聞の全国版に風早が紹介されました。



まんようしゅう
奈良時代に編纂された現存最後の歌集で、二十巻からなる。七百三十六年に派遣された遣新羅使の歌(百四十五首)は、十五巻所収。遣新羅使たちの歌は、万葉集の最終的な編纂者とされる歌人、大伴家持による創作ともいわれる。「創作が含まれていたとしても、当時の人々にとって鮮烈なリアリティーをもった歌だったのだでしょう」(上野さん)

君が行く 海辺の宿に 霧立たば 我が立ち嘆く 息と知りませ
「万葉集」
万葉から変わらぬ潮風 風早(かざはや)の浦(広島県東広島市)

た。 離れていても、私たちの心は一つ——。そう誓い合った夫婦は、再会することができたのだろうか。国学院大特別専任教授で、万葉学者の上野誠さん(66)は、「どんな困難にあっても、人を思う気持ちこそが、人を生へと向かわせる」と語る。

奈良時代の中頃、日本と新羅の関係は良好ではなかった。「続日本紀」には、使節団は新羅の都に入ることも許されなかったと記される。さらに、帰りの船中で天然痘が流行し、大使らが客死。9か月半余りを経て都に戻ったものの、命を落とした者もいたという。

我が故に 妹(いも) 嘆くらし 風速の 浦の沖辺に 霧たなびけり
風早駅を出て北へ、緩やかな坂道を歩いて約20分。高台から海を望む祝詞山(のりとやま)八幡神社に、夫婦が交わしたとされる相聞歌の歌碑が立つ。「ここは万葉のふる里。1300年前も今も変わらぬ潮風が吹く場所です。この歌は、私たちにとって宝物」と、富永司宮司(69)は話す。

あなが行く海辺の宿に霧が立ったなら、都で嘆く私の息だと思って、私のことを思い出して。
天平8年(736年)6月、朝鮮半島の新羅に向かう外交使節「遣新羅使」の一行が、難波津(なにわづ)を出港した。瀬戸内海を通り、筑紫、壱岐、対馬を経て新羅を目指す船旅。陸地に沿って走る手こぎの帆船は、座礁の危険と常に隣り合わせだ。半月後、風早の浦にたどり着いた夫は、海から立ち上る霧に妻の気配を感じ取る。

風のない日の海はしばしば、霧に包まれる。「ずいぶん前に一度、海面全体から湧き立つような、ものすごい海霧を見たことがあります」。古代の人は海霧を「嘆きの霧」と呼んだ。

三津湾は古来、「風早の浦」と称された。「6世紀頃、ここに勢力を伸ばした風早氏の名に由来するとも伝わります」と、郷土史を研究する二宮康成さん(85)は言う。瀬戸内海は畿内と九州、朝鮮半島や大陸を結ぶ航路として栄え、風早の浦には、潮待ちや風待ちの船が停泊した。

海沿いをゆっくりと進む呉線。風早駅で降りると、潮の香りのする風が頬をなでた。目の前に広がるのは、大小の島が浮かぶ三津湾。養殖用のカキいかだの前を、小さな船が行き交う。

7月の予定

7月 3日(金) 第1回敬老事業実行委員会

7月10日(金) 記念品検討会議

センターの活動紹介

ノルディックウォーキング 6月8日(月)

あいにくの雨で、室内でのウォーキングになりました。ノルディックウォーキングは、通常のウォーキングより消費エネルギーが約20%増え、全身の約90%の筋肉を使うことで、脂肪燃焼・心肺機能向上・姿勢改善・転倒予防などに効果的な有酸素運動とされています。特にシニアでは足腰への負担を減らしつつ、筋力維持やロコモ予防に役立つことが報告されています。



高齢者料理教室 6月2日(火)

食生活が不規則になりがちな高齢者にも、「いつもの(定番)田舎料理」で気取らない素朴な料理をおいしく食べられるように工夫して、みんなで楽しく調理し、食への関心を深めてもらいました。料理は、「押しずし」「牛しぐれ」「かんたんオムレツ」「ひじき入りがんもどき」「マーマレードで簡単ゼリー」の5種類で、どれも美味しくいただくことができました。教室は年間3回予定しています。



風早小学校 神賑行列の取組みが始まる 6月8日



風早小学校5年生は、総合的な学習の時間において、地域の伝統文化である神賑行列の練習に取り組んでいます。神賑行列は約200年の歴史をもち、市の重要無形文化財にも指定されている貴重な行事です。今回の学習は、子どもたち自身の提案から始まったもので、地域の文化を受け継ぐ意欲が感じられます。

6月8日には、地域の指導者6名をお迎えし、体育館で第一回の練習を行いました。子どもたちは3つのグループに分かれ、笛・太鼓・シャギリ・奴のすべてを体験しました。約1時間という限られた時間でしたが、子どもたちは熱心に取り組み、動きや音の出し方を次々と覚えていく姿が見られました。

今後の練習を通して、地域の伝統をより深く理解し、受け継ぐ心を育てていってほしいと思います。